

白嶽遭難(2012年12月)

観光客が、白嶽の下りで道に迷い遭難。携帯電話の発信位置が特定されたため、遭難現場の近くまで行き、大声で叫んだところ返事が返ってきた。周りには道が無く、腰ほどの藪を漕ぎ救助した。



解説

遭難した観光客から警察に電話が入る。『白嶽正規ルート上の「行者の岩屋」を通過後、白嶽神社の「鳥居分岐点」を通過せず、山頂近くの岩場に登ったが、帰路に道を見失い、白嶽山中の見晴らしのよい岩場にいる』と。警察は、遭難者からの連絡で遭難場所を特定することができた。

発信地の近くまで行き、大声で叫んだところ、返事が返ってきた。遭難者は正規ルートを外れた岩の上におり、ケガはないが、軽装で単独行動のため、かなり疲労していた。『往路に正規ルートを通っていなかったため復路でも道を見失い、無理に進んだ結果、まったく道がわからなくなった。』と遭難者は語った。

観光客が気楽に観光地の白嶽に登った。登りは正規ルートを使わなかった。なぜだろう？下りでも道が分からなかったという。当然である。観光地という気安さで『冒険心』が出てしまったのだろうか？標高も低かったため、携帯電話が通じた。遭難場所も警察に伝えることができた。だから、救助された。自らルートを外れ、道に迷う。

気楽に山へ登る方へ・・・「もう一度行動を考えてほしい」。